# 天使と犬

てんし いぬ

JAPN 3302-02

Level 3

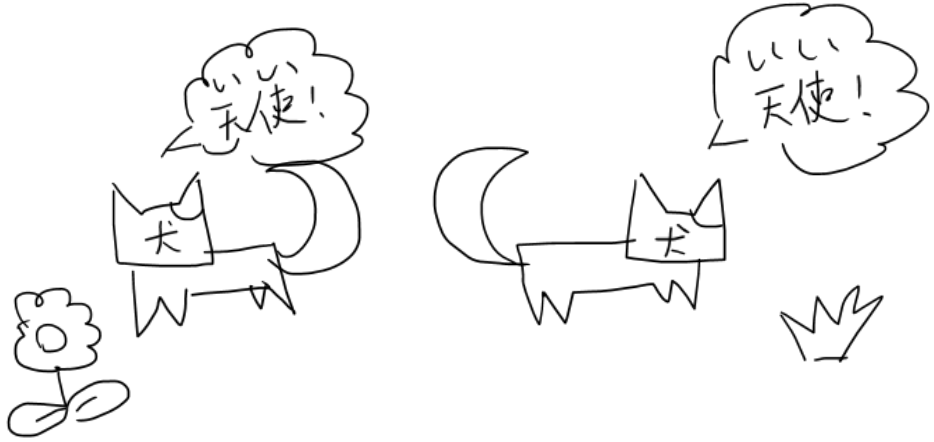
By Ziwen Guo

# 天使と犬（てんし　いぬ）

もしある世界で、犬だけがいるとしたら、その世界はどんな世界でしょうか。

ある日、私達の主人公、一匹の犬は食べ物がなくなって、もうすぐ餓死するかもしれない状態でした。「もし天使がいればいいな、きっと食べ物をくれるでしょう」犬はそう思いました。その時、目の前に鶏肉が現れました。犬は頭をあげました。「天使だ」犬は天使を見ました。

天使はあまり話をしない天使でしたけれど、よく犬に色々な食べ物を持って来てあげました。犬は天使にとても感謝していました。元気になると、犬はいつも他の犬にこの天使のことを話しました。犬はいつも天使をほめていました。花や草までにも天使のいいところを何回でも話しました。すぐ、他の犬達も「この世界で、一人のいい天使がいる」ということがわかりました。犬は天使と良い友達になりました。



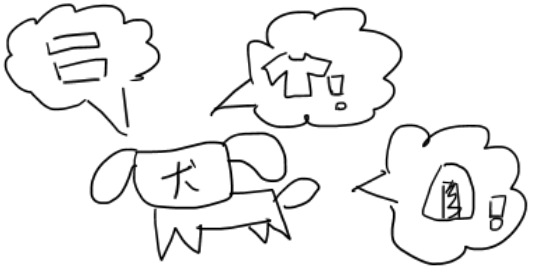
でもある日、他の犬は「天使だったら、他の犬にも食べ物をあげるよ、天使は犬達を平等に愛しているのでしょう」と、天使に言いました。天使は困って、他の犬にも食べ物をあげはじめました。

天使は犬に話をし始めました、時々自分の大変さを教えてくれました。けれど、他の犬は「天使だったら、他の犬にも話をするよ、天使は犬達を平等に愛しているのでしょう」と、天使にそう言いました。天使が困って、他の犬に話をし始めました。

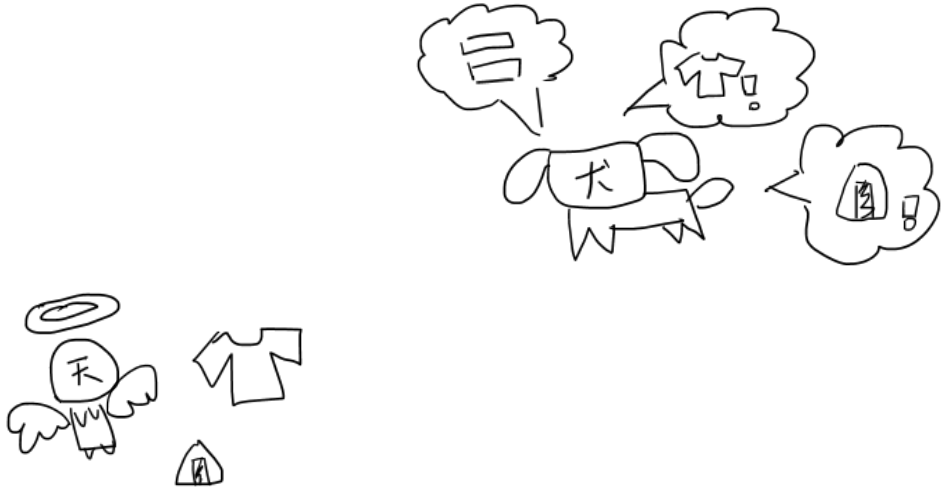
天使は犬に誕生日プレゼントをくれました。けれど、他の犬は「天使だったら、他の犬にも誕生日プレゼントをあげるよ、天使は犬達を平等に愛しているのでしょう」と、天使にそう言いました。天使が困って、他の犬にプレゼントを準備し始めました。

天使と犬の時間がどんどん減っていました。犬は悲しいと思いましたが、「これはしょうがないことだ」とわかっていました。犬は「天使は天使だから、天使は犬達を平等に愛しているのはずだ」と思いました。

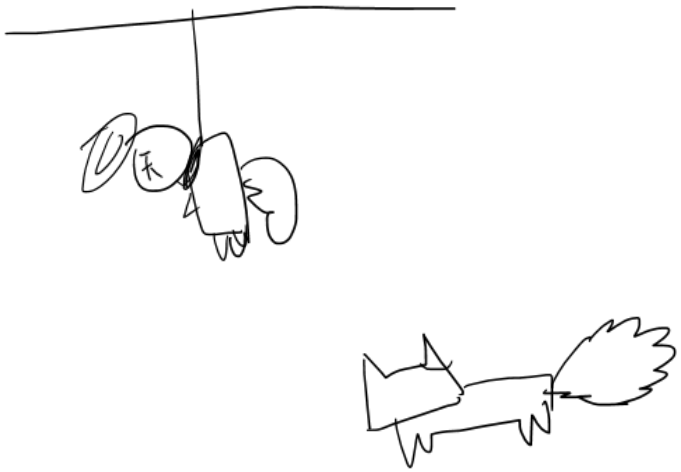
天使の生活はもっと大変になりました。自分に新しい服を買う時、他の犬は「天使だったら、そのお金で他の犬に服を買うよ、天使は犬達を平等に愛しているのでしょう」と言いました。自分がおいしい食べ物を食べる時、他の犬は「天使だったら、その食べ物を他の犬にあげるよ、天使は犬達を平等に愛しているのでしょう」と言いました。天使は何をしても、きっと不満の犬がいました。



犬は悲しいと思いましたが、「これはしょうがないことだ」とわかっていました。犬は「天使は天使だから、天使は犬達を平等に愛しているはずだ」と思いました。だから、犬は天使のために何もしませんでした。



そして、天使の誕生日が来ました。犬は天使の家に行きました。そこに、天使の死骸を見つけました。一本のひもが天使の首をしばり天井からかかっていました。、天井に懸かりました。となりに犬への手紙がありました。



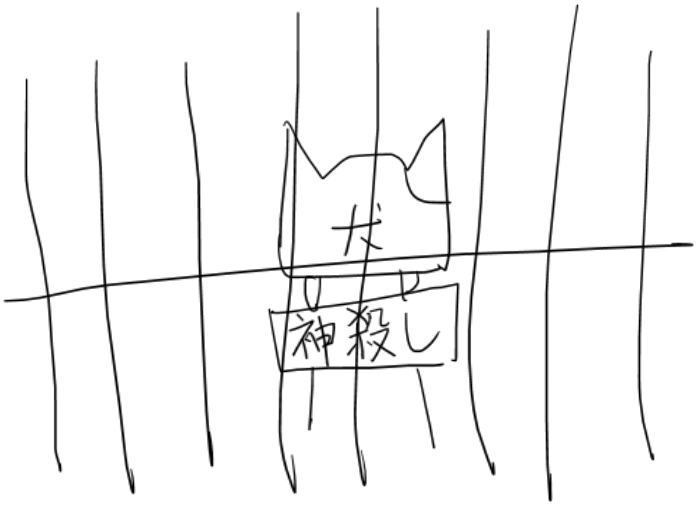
手紙にはこう書かれていました。

犬さん、

この手紙を読んだ時、私はもう死んでいるはずです。ずっと皆さんに天使と呼ばれていますが、実は、私は天使ではない、犬さんと同じ、ただ普通の犬です。犬さんと出会った時、犬さんは意識がすぐなくなる状態だった、だから私を天使と間違えたですね。私も皆さんの期待に応えようと頑張っていましたけど、でも、やはり、それは難しすぎることだったかもしれません。だから、本当にすみませんでした。

さようなら。

この手紙を読んだ犬はとても悲しいです。犬はこのまま天使の死骸のそばに待っていて、この後に他の犬に見つけました。犬は「神殺し」の罪で審判して、永遠に牢屋にとじこめました。



最後(さいご)、犬達(いぬたち)は天使(てんし)のことを忘(わす)れて、元(もと)の生活(せいかつ)に戻(もど)りました。

おしまい。